

琉球の怪異 渡嘉敷島の化け物

キーワード 怪談 琉球 渡嘉敷 異獣



はいさーい！ 琉球大学附属図書館に棲む、きじむんやいびーん。
今年度も琉球・沖縄の楽しいお話を毎月紹介していくよ！
今年度は琉球・沖縄の妖怪・幽霊など怪異な話を古文書などから紹介するね！

平成26(2014)年6月24日、沖縄県渡嘉敷島の海岸で、アザラシが発見されたニュースを覚えている？

アザラシは体長約1メートルで、背に灰色の黒いまだら模様が散らばっていて、人がサンマやオキアミを与えるとパクリと食べて人気者になったんだ。生態系を考えると沖縄にいるのはありえないほどまれなケース。はじめてのことだとかなり報道されたよ。(平成26年6月25日琉球新報記事「渡嘉敷にアザラシ 旅の途中？ 餌もらいパクリ」参照。)

ところが、琉球王府時代の古文書をのぞいてみると、迷子のアザラシらしい記述があるよ。しかも琉球人にとっては、化け物のようにみえたらしいんだ。琉球王府が編纂した歴史書『球陽』によれば。

1698年、渡嘉敷島で異獣が海から出てきて岩礁に座る。獣の身体は黒牛に似て、顔と耳目は豚のようで4本足で指の間には水かきがあり、まつげ・髪は真っ白で、長さ15-18cm、尾はまっすぐで堅く長さ33cm、周囲約9cm。吠え声は牛のようで、座り方は犬に似ている。島の役人達は怪しみ驚き、村長に報告した。翌日大勢で見に行くといなくなっていた。(原文は漢文。)

身体の特徴からアザラシだろうと現代人は分かるけれど、当時の人々はアザラシを知らないので必死に描写して怪しんで恐れていることがわかるよね。

他にも、時代や場所が違ってもいくつもの記述があって、アザラシであることがわかるよ。

どうやって琉球の古文書のことを知るか、というと、附属図書館の沖縄資料データベースが便利。多くのデータベースのうち、貴重書の写真、翻刻、訳文がある「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ」、「沖縄文献情報データベース」、「沖縄情報統合検索システム」でぜひ好きなキーワードを入れて検索してみてね。きっとたくさんの必要な情報が出てくるよ。館内で配布中の『沖縄資料ガイドブック』(平成27年3月発行)に詳しい検索方法が出ているのを見てね！

琉球の怖い話に不思議な話、妖怪の話は、また来月お届けします。またみてね！

これまでのバックナンバーは附属図書館ホームページでご覧ください！

(AS生)

